

# 郷土の偉人「前島密」

平成十六年度の文化講演会は、「人間『前島密』を語る」と題して一月二十二日東京アルカディア市ヶ谷において、「前島密翁」の研究者前島記念館事務局長樋口嘉和さんに講演を頂きました。講演終了後は、楽しい懇親会でした。

前島密翁は郵便事業の創始者であることは伝わっておりますが、新聞事業、鉄道事業、陸運会社の創立等など多くの歴史的事業に携わっておられました。

- 一、漢字廃止の建議（慶応二年）
- 二、江戸遷都を建言（慶応四年）
- 三、鉄道創設の立案（明治三年 品川 横浜間）
- 四、郵便創業（明治四年）
- 五、新聞事業の育成（明治四年、現報知新聞）
- 六、陸運元会社の創立（明治五年、現日本通運）
- 七、海運政策の建議（明治五年、現日本

- 八、郵便為替の開始（明治八年）
- 九、郵便貯金の開始（明治八年）
- 十、訓盲院の創立（明治十二年）
- 十一、勲業博覧会の開催（明治十年、第一回博覧会）
- 十二、日本海員救済会の創立（明治十三年、海員の養成、保護救済活動）
- 十三、東京専門学校（現早稲田大学）の創立（明治十五年、現早稲田大学）
- 十四、電話の開始（明治二十三年、東京 横浜間に電話の交換業務）

前島密翁の生い立ち、足跡、とりわけ母上「てい」さんとの心の触れ合いを熱く語られました。

母上「てい」さんの言葉です。

「汝不幸生後八カ月にして父を亡び、独り母の手に依て乏しき養育を受け、茲に初めて就学の道に上らんとす。真に喜ぶ

べし。請う克く健康に克く勉勵に、師教を奉じ男子足れ。誓つて父無き者との嗤を取る莫れ」

「汝若年にしてその意を決す。何ぞこれを贊せざらん、：精神一到何事か成らざらん、一旦方針を定めて前進せんとす、何ぞ其の歩を躊躇せんや。このこと冒険不安な事なりと雖も、僻地に屈して成す無く、生きて益なきに勝る」

「この事たる我に損害無くして、正理有るを公表したれば、甚だ慶うべし、我は己に生計の見込み立ちたりば憂うなし、汝の苦難はこれ天与の大研究なり」

「男児苟も志しを立つ、死は素より恐るに足らず。唯注意すべきは長旅の健康なり。幸い母は貯蓄少し許りあれば之を餓せん」



続く懇親会では、野口家に伝わる前島翁の手紙の披露がありました。

